



# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげている。	理念を朝の引継ぎ時に唱和し、再認識すると共に入社時に各職員が法人より頂いている「そよ風手帳」(介護の基本、知識手帳)を各自が目を通し、仕事に入る前に必ず読み実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流は出来ていないが、近くのお店には月に数回は買い物に行き、店の人との交流を図っている。	地元の大学生や、地域住民のボランティアを受け入れたり、施設前の幼稚園との交流。市内の介護事業所との合同夏祭り等、地域の一員としての交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	向上に活かしている。	2ヶ月に一度、年6回家族の参加を得るため日曜日に開催している。家族の参加はもとより市の職員・地域包括・地域住民の参加があり、施設の取り組み等の報告と、話し合いを行い事業所の運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	用事がある場合は連絡を取っている。協力関係を築くようには努力はしている。	週に一度は電話ではなく、直接市へ出かけ報告やサービスの取り組みについて相談し、アドバイスをいただいている。利用者の受け入れも行政からの紹介がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての考え方を伝え、具体的に行動の中で理解ができるようにしている。玄関は、防犯上施錠しているが、各ユニットの出入り口は開錠され自由に行き来ができる。素振りを見て個々に外出支援をしている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止は徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得を御家族様から頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの意見は反映されている。	玄関には意見箱を設置している。家族等の来訪時には極力、施設長か副施設長が面談し、意見や要望を聞く様にしている。意見はミーティングや会議にて話し合い、迅速に対応する取り組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ては反映されていない。	施設長と副施設長で年に2回は、個別面談を実施している。ユニット会議にて意見・提案等聞く機会をもうけ、運営に反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は充実していない。個々に研修に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流の場は持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の暮らしの中で内的世界を考え安心を確保出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様に信頼頂ける様、来訪時又は連絡をさせて頂き、信頼関係が築ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時何が必要かを見極め、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側の介護をせず、常に入居者様側寄りそい介護を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様から家族力を頂きながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その人の生活歴を大切にし、その人にとっての馴染みの人、物、場所を大切に支援に努めている。	地区の公民館や児童館に、施設の行事予定を掲示していただき、地域の同年代の方が来所していただいている。家族との外食や旅行等に職員がその場所まで送迎の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の風が吹く様に支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も本人の思い家族の思いを忘れない様、今までの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの援助目標を明確にし、希望・意向の把握に努めている。	利用者にアンケートを行い、外食の食べ物を決めたり、個人レクに取り入れたり、職員との買い物は、制服はやめて欲しいとの意見があり、改善した。記入が難しい利用者には、普段の様子から汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他者との共有時間を作り、一人ひとりに合った一日を過ごして頂ける様に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報の共有を図り、家族の意向・想いを現状に即した援助計画を作成している。	利用者の担当制をとっており、家族の意向や担当職員の意見を踏まえ、全職員で話し合い利用者の立場に立って、現状に即した計画が作成されるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に気づきの視点を持ち、個人記録に記入し、申し送りノートを活用し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせて柔軟な援助を行える様に日々取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人的資源を活用し、一人ひとりの力を発揮できる様援助を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科、精神科の往診を実施し、医療との連携を図り、適切な指示を受けている。	利用者がそれぞれに、専門医やかかりつけ医療機関で医療が受けられる様に、希望を尊重した支援をしている。針治療等は家族に通院をお願いしているが、かかりつけ医へは職員が通院支援をしている。主治医とは24時間体制の対応支援が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを往診受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、診察医と連携を図り、適切な指示を受け入院した際は安心して治療ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から終末期のあり方について家族、医師、職員間で話し合い情報を共有し支援に取り組んでいる。	入居時に看取りや重度化の指針を説明している。状況の変化の中で、家族と繰り返し話し合い掛かりつけ医や家族の協力のもとに実際の看取りの経験があり、職員は心を合わせ受け入れの姿勢を持ち支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が身につけている。	年2回定期的に消防署の指導の下で、昼間・夜間想定避難訓練を実施している。自治会長・オーナーの参加がある。水消火器を使った消化訓練も取り入れている。	建物が3階建てであり、有事の際職員が利用者を安全に避難させることが出来るよう、各階の連携をシミュレーションしながら訓練をして欲しい。また、隣接の病院・保育園との協力体制ができるよう望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシーの確保に努め、人格を尊重した言葉かけや対応をしている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないよう丁寧な言葉掛けや、居室入室時のノックや声掛けをしている。職員間では、使ってはならない言葉等も確認し合いながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現が上手く表せない方は表情、目の動きを読み取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者側の立場に立ち、一人ひとりのペースに合わせ支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の選択肢を優先し不適切な着衣にならない様に自室の整備を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が一日の楽しみになるよう一緒に準備、配膳、下膳をお手伝いしていただいている。	お茶碗・湯のみ・箸は、入所時に持参していただいている。包丁を持っての手伝いや盛り付け・配膳・片付け等、出来ることを職員と一緒にやっている。月に一度は、外食か出前を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は1000mlを目安に飲水していただいている。食事量が少ない時は栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声かけをし、失禁を未然に防いでいる。腹部マッサージ等を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。	職員は、出来る事は自分で行なうよう支援し、なるべく日中は布パンを利用、声掛け・様子を把握し失禁の無いよう支援している。便秘気味の利用者には下剤は使わず、乳製品を利用し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防を取り組んで実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望、タイミングを見極めて入浴して頂いている。	利用者一人ひとりの希望を聞き、身体状況に合わせた入浴支援をしている。入浴剤や湯船に花等を浮かべ楽しみながらの入浴となるよう工夫している。冬場はフットバスも利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時に応じて個別対応を行い、良眠して頂ける様に支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的は各職員が理解し、状況に応じて、データを蓄積している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの興味、嗜好品を各職員が把握し喜びのある日々を送って頂ける様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人レクで外出の機会を作っている。本人の希望に添える様に努めている。	天候や利用者の体調などの良い条件が整えば、毎日近隣への散歩に出かけている。トイレ設備の良いスーパーへの買い物や、御弁当を持参しての花見等職員が支援している。家族が施設の車両を利用し外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先での金銭のやり取りは行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに生活感、季節感を採り入れ、生活音には十分に配慮をしている。	行き止まり廊下のスペースを利用したコーナー椅子の設置や、テーブル椅子、ソファ等の配置により、利用者はその日の気分で自分の居場所を選ぶことが出来る。また、居間の大きな窓からは畑や林が広がり季節感が感じ取れる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で独りになれるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具等を居室に置き、家族からのプレゼントも飾ってある。	ベッドに不慣れな利用者の居室には、ござを敷き布団を利用している。居室には、使い慣れた家具や家族の写真・手芸品が飾られ、清潔に保たれ居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの導線に注意を払い、安全な環境作りに努めている。		